



大図研京都ワンディセミナー

終了しました

Go to レファレンス

～ウィズコロナ時代におけるレファレンスの在り方を
再定義してみませんか～

このコロナ禍の状況において、資料の電子化や電子資料の利用が促進され、多くの図書館では電子資料へのアクセス方法が丁寧に紹介されている一方、実際に適切な資料を利用者に提供できているのかといった疑問も生じていませんか。

このような時、図書館の存在価値の一つとして、資料と利用者をつなぐ役割であるレファレンスの重要性が一段と問われているのではないのでしょうか。

多くの図書館において、リモート形式でのレファレンスが実践されていますが、いまだ手探りしながら対応に当たっているのが実状ではないのでしょうか。今回のセミナーを通して、ウィズコロナ時代におけるレファレンスのヒントを得るとともに、改めて今後のレファレンスの在り方を考えてみませんか。

日 時 : 2020年11月14日(土) 13:00-16:00
会 場 : オンライン (Zoom)
講 師 : 矢崎美香 氏 (九州女子大学 准教授)
主 催 : 大学図書館問題研究会京都地域グループ

※ 次号にて参加報告を掲載予定です

[目 次]

大図研京都ワンディセミナー 終了しました	…	1
グループ運営委員 挨拶	…	2
会費ご納入のお願い	…	6

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール : kyoto@daitoken.com (大学図書館問題研究会京都地域グループ)

URL : <http://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

グループ運営委員 挨拶

2020/2021 年度グループ委員を務めます 12 名よりご挨拶させていただきます。

今年度もより一層京都地域グループ盛り上げ、会員の皆さまのお役に立つような情報提供を行っていきたいと思います。これからも大学図書館問題研究会京都地域グループをどうぞよろしく願いいたします。

● 研究企画 / 全国委員 (安東 正玄)

昨年度に引き続き研究企画と全国委員を担当します。

図書館を離れてまる 4 年が経過し、冗談ではなく図書館に関する旬なキーワードがわからなくなってきました。コロナの影響もありましたが、企画が思ったように実施できなかったことが、機関紙の原稿や新人獲得に機会などにも影響し、非常にまずいと思っています。そんなこともあり今回、若手にも研究企画に加わってもらって、新しい風を吹かせてもらっています。感謝です。

あんど う せいげん (立命館大学)

● Twitter / 組織・財務 / グループ報編集 (内田 栞)

新型コロナウイルスの影響で電子ブック整備の重要が増してきています。

私の仕事はいま、空前の電子ブックフィーバーです。まずは量を増やすということで、今まで購入できてこなかった基盤的資料の増強を図っています。

大量の電子ブックの納品後、1 点ずつアクセス確認しながら、思います。これらは、果たしてどのように使われているのか、本当に使われているのか、利用方法に不明な点はないだろうか……。本当はそういった部分もしっかり考えてやっていきたいのにな……。私の職場の特徴として、実際のユーザーである学生さん先生方と直接話をするのが難しいということがあります。サービス部門や学内他部署とも連携をとっていかなくてはいけないと思いつつも、購入業務に追われる日々を過ごしております。

皆様も多かれ少なかれ否応なしに、変化した業務に対応されていることと思います。ちょっとしたもやもや情報共有ができる場に京都地域グループがなりますよう、微力ながらグループ委員として携わってまいります。今年度もどうぞよろしく願いいたします。

うちだ しおり (京都大学附属図書館)

● グループ報編集 / 「大学の図書館」編集 (坂本 拓)

昨年度に引き続き、グループ報編集と「大学の図書館」編集を担当します。編集という作業は、自分で何が文章を書くわけではないのですが、企画をしたり、執筆いただいた文章がより美しく見えるようにレイアウトを整えたりと、なかなかクリエイティブな業務です。料理でいえば、自分は料理を作るわけではないけれども、献立を作ったり、盛り付けをしたり、という感じでしょうか。

新型コロナウイルスのために、なかなか人に会うことが難しくなっている昨今、グループ報や「大学の図書館」に書く＆読んでいただくことで、会員の皆様が相互に、元気づけられるような活動をしていきたいと思っています。

グループ報への原稿は、随時募集しておりますので、お気軽にご連絡ください。今年度も一年間、どうぞよろしく願いいたします。

さかもと たく (国立民族学博物館図書室)

● 副グループ代表 / グループ報印刷・発送 / 組織・財務 (長坂 和茂)

世界史的に、疫病が世界を変えることはあまり珍しくありません。ペストの流行で百年戦争が中断したり、赤壁の戦いで曹操軍が撤退を余儀なくされ、曹操による統一がなされなくなったりしたことも歴史を変えた疫病であったということもできるでしょう。少なくとも、疫病が無かった場合、世界史の年表がある程度書き換えられたことは間違いありません。

さて、今から1800年前の延康元(220)年に、その魏王曹操が死去します。彼は若いころから頭痛持ちだったとされ、それが原因ではないかと言われたりします。まあ、原因は関羽の呪いかもかもしれません。

曹操は前王朝を滅ぼして自身が皇帝になったわけでもなく、天下を統一したわけでもないことを考えると、中国史上の数多の建国者のなかでそこまで特筆すべき人物ではないのも事実です。それでも彼の名が良くも悪くも人々の記憶に残っているのは、彼の息子曹丕が「文章は経国の大業にして不朽の盛事なり」と言ったように、史家や小説家らの筆の力が大きいのでしょう。

筆の力を信じていきたいなと思った次第です。

ながさか かずしげ (京都大学桂図書館)

● グループ代表 / Web サイトと ML (野間口 真裕)

昨年度に引き続き、グループ代表を務めさせていただきます。

2020年をはじめから新型コロナウイルス感染症拡大により、世界が一変してしまいました。三密回避、ソーシャルディスタンス、大学は、図書館は、どのように変わっていくのでしょうか。新たな会場、新たなテーマ、続けていくもの、変えていくもの、様々ご意見お待ちしております。

当グループでは引き続き、会員相互の交流を深めていくとともに、新たな仲間を増やしていきたいと願っています。本年度もよろしく願いいたします。

(久しぶりのWebサイトの担当になり、トップページを少し変えてみました。かもめが飛ぶ画像です。引き続きどうぞよろしく願いいたします。)

のまぐち まさひろ (京都教育大学附属図書館)

● Web サイトと ML (原 健治)

図書館を離れて3年半が経過し、図書館についての現状など全く理解できないような現状にあります。学部の事務室にて時折資料系に関する業務も少しかじって担当した際にも、知らないことと変わらないことが折り重なり、特に淡々とやり過ごすことが多

くなりました。また今年度は、COVID-19 禍での学部運営でバタバタ慌てているうちに年を越してしまいそうで、この状況で教学に関するインフラの在り方を考える毎日です。

そのような中で横断的に情報をいただけるこの大図研の機能を利用して、業務に生かそうと思いますが、どうなることやら.....。

はら けんじ (同志社大学文学部・文学研究科事務室)

● 研究企画 / 広報・デザイン (藤谷 篤)

“The library is a growing organism.”

外部環境の変化に見舞われ、イレギュラー対応に追われる日々を送っておりますが、そんな中で基本に立ち返るのはこの言葉です。

成長する有機体とはいえ、図書館が勝手に成長してくれるものではありません。図書館を成長させていくのはあくまでも我々図書館員ではないでしょうか。

先行き不透明な時代ではありますが、我々図書館員の成長が図書館を成長させていく、このことにつながっていると信じて突き進んでいくしかありません。

ふじたに あつし (立命館大学図書館委託職員)

● 広報・デザイン / 「大学の図書館」編集 (山形 知実)

引き続き、広報・デザインと「大学の図書館」編集を担当いたします。顔を合わせて言葉を交わすのはもう少し我慢、の日々ですが、多くのイベントがオンライン開催となり、参加のハードルは圧倒的に下がったのではないのでしょうか。

「ひとりも知り合いがいなかったらどうしよう」「移動時間も考えると、ちょっと大変…」等のご心配は不要です。活発な活動を行う京都地域グループならではの種々の企画を、この機会にぜひご活用ください。

また、「大学の図書館」では、皆様に役立つトピックをとりあげてまいります。

COVID-19により、これまでの業務の在り方が大きく変わった機関もあることでしょう。皆さまからの事例や経験談をお待ちしております。

やまがた ともみ (北海道大学附属図書館)

● メールマガジン (山上 朋宏)

今年度も引き続きメールマガジンを担当いたします。

メールマガジンでは、「ML ゆりかもめ」を通じて各種案内や毎月初めの図書館関係のイベント開催情報などを配信しています。

今年は新型コロナウイルスの影響で、開催が中止になるイベントもありますが、オンライン上で開催されるイベントも多くなりました。それらの情報も見逃さずに会員の皆様に情報提供ができるように努めてまいります。

1年間どうぞよろしく願いいたします。

やまがみ ともひろ (京都大学医学図書館)

● 研究企画 / メールマガジン (山下 ユミ)

今年は初めてメルマガを担当します。よろしくお願いします。

大学図書館を離れ、公共図書館で市町村支援の業務の3年目です。以前のように、外国雑誌の電子ジャーナルや雑誌論文データベースにアクセスすることはなくなりましたが、電子資料に関しては、公共図書館は大学の後を追っている状況ですので、大学での経験は、私の大きな武器になっていると感じています。今後も大図研の力をお借りして、大学図書館の動向をフォローしながら業務をしていきたいと思っています。

やました ゆみ (京都府立図書館)

● 研究企画 / 「大学の図書館」編集 (若狭 あや)

今年度、研究企画、「大学の図書館」編集を担当いたします。少し職場は変わりましたが、今年も去年と変わらず電子ジャーナル等について考える日々です。コロナ禍により、状況がどんどん変わっていきませんが、取り残されないよう、たくさんの情報を得て、また得るだけではなく、きちんと取捨選択できるように頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

わかさ あや (文部科学省研修生)

● グループ報編集 (鷺津 彩乃)

新型コロナウイルスの影響でオンラインのイベント・研修が増え、気軽に勉強できる機会が増えています。一方、私は少し忙しくなるとどれに申し込もうか迷っている間に終了してしまうことも多く、反省する毎日を送っています。自分で計画的に・積極的に勉強していくことの重要性を再認識しています。

今年度も担当させていただくグループ報の編集では、皆様の自己研鑽・気づきになる情報をお届けできるよう努めます。どうぞよろしくお願いいたします。

わしづ あやの (名古屋大学附属図書館)

◇ 会費ご納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

2016/2017年度(2016年7月～2017年6月)より、大学図書館問題研究会会費は、すべての会員の皆さまに、直接大学図書館問題研究会事務局へご納入いただくこととなりました。

一括徴収方式に移行し、4年目となりますが、京都地域グループは年度継続の前に会費をご納入いただく前納があまり進んでいない状況でございます。ワンデイセミナーやグループ報は京都地域グループ費により開催・発行させていただいております。ご多忙のところ大変恐縮ですが、会費のご納入のほどよろしくお願いいたします。

会費は、¥7,000(大図研会費：¥5,000+京都地域グループ費：¥2,000)/年度です。

【振込先】

郵便局 00190-2-79769 大学図書館問題研究会

■銀行名 ゆうちょ銀行 ■金融機関コード 9900 ■店番 019
■預金種目 当座 ■店名 〇一九(ゼロイチキューウ店) ■口座番号 0079769

ご不明な点は大学図書館問題研究会事務局(会費担当)(kaihi@daitoken.com)までご連絡ください。

※ 学生会員制度(試行)として、学生の方には特典をお渡ししております。

詳細は京都地域グループ Web サイトの「学生会員制度の試行について」をご覧ください。